



2010年11月10日

ビジョンが現実に： BMW がプラグイン・ハイブリッド・テクノロジー搭載スポーツ・カー の量産化を発表

ミュンヘン/ライブツヒ発：

2009年開催のフランクフルト・モーターショー(IAA 2009)にて多くの注目を集めながら「BMW Vision EfficientDynamics(ビジョン・エフィシエントダイナミクス)がデビューした。このスポーツ・カーはBMW ActiveHybridテクノロジーをベースに、カリスマ性あふれるデザインを取り入れ、感動を呼ぶ走行性能と未踏の効率性を実現したモデルである。コンセプト・スタディながら、量産コンポーネント、および量産化間近のコンポーネントを多数採用したこのモデルはアンヴェールと同時に絶大な反響を呼んだ。そして今、多くの人たちが待ち望むBMW Vision EfficientDynamicsの路上走行が実現に向けて大きく前進した。今回BMWは、ライブツヒの見本市会場にて、スタディ・モデルのBMW Vision EfficientDynamicsをベースに開発された、実走行可能なプロトタイプを発表。発表会では、ハイブリッド・システムを搭載した2+2シーターの革新的な走りを体験できる機会がメディア代表者のために用意された。

コンセプト・スタディのBMW Vision EfficientDynamicsは、未来の「駆けぬける喜び」を体現する車両である。IAA 2009でワールド・プレミアムを飾った後、この車両は未来的なデザインと先進的な駆動技術によりいくつもの賞を受賞した。全高わずか1.24mの2+2シーターは、BMW特有のフォルムを受け継ぎつつ、美観と運動性能を追求している。ガル・ウイング・ドアにより、前席/後席ともに乗降時の快適性を確保するだけでなく、エアロダイナミクスに関して工夫を凝らした結果、空気抵抗係数を $Cd=0.22$ に抑え込むことに成功した。フロント・アクスルに3気筒ターボ・ディーゼルとハイブリッド同期モーター、リヤ・アクスルにフルハイブリッド・ドライブ・システムを装備し、システム出力は241kW[328ps]に達する。最新のBMW ActiveHybridテクノロジーにより、走行性能は標準的なスポーツ・カーと比べてもまったく遜色がない。0-100km/h加速はわずか4.8秒、EUテスト・サイクル(KV01)による平均燃費は100kmあたり3.76リッターで、CO₂排出量は99g/kmにしかない(EU-PHEV ECE-R101テスト・サイクルで計測した場合、燃費が1.3リッター/100km、CO₂排出量は33g/kmとなる)。

比類のない運動性能と効率性の両立には、いずれも高い効率を誇るドライブ・コンポーネント類、3台のエンジン/モーターのパワーの精緻な結合、ブレーキ・エネルギー回生システムを含む精密なエネルギー・マネージメントが寄与している。さらに特筆に値するのは、スタディ・モデルのBMW Vision EfficientDynamicsはプラグイン・ハイブリッド車である、という点である。

車両の中央に縦位置に配置したシャシー・エレメントには、このハイブリッド・スポーツ・カー専用に開発されたリチウム・ポリマー・バッテリーが格納されている。このバッテリーは、家庭の電源コンセントを使用した場合、2 時間半で充電が完了する。電気エネルギーのみを使用し、ゼロ・エミッション走行した場合の航続距離は約 50km、また、容量 25 リッターの燃料タンクにディーゼル燃料を満タンにした場合、行動半径は 700km に広がる。

プラグイン・ハイブリッド・テクノロジー搭載のスポーツ・カー量産の開発に従事することで、BMW は、運動性能と環境性能を兼ね備えた、究極のドライビングを提供するプレミアム・メーカーにおけるグローバル・リーダーとしての地位を一段と確かなものにしようとしている。現在、すべての BMW モデルには、燃費向上と CO₂ 排出量引き下げに寄与する技術が標準搭載されている。そのための技術革新の根底をなすコンセプトこそ BMW EfficientDynamics であり、ハイブリッド技術の BMW ActiveHybrid と電動ドライブ・システムもこの開発戦略に沿って設計されている。BMW の量産型ハイブリッド車としては、すでに BMW ActiveHybrid 7 と BMW ActiveHybrid X6 の 2 モデルがデビューを果たしていて、ともに内燃エンジンと電気モーターのコンビネーションが、BMW ブランド独自の運動性能を一段と効率的に高めることに成功している。

電気自動車に関しては現在、MINI E による大規模な実証実験が実施されている段階で、BMW ActiveE についても近日、日常的な交通条件下での走行テストが開始される。さらに 2013 年、BMW グループは、電気エネルギーだけで走るモデル「メガシティー・ビークル (MCV)」の生産をライプツィヒ工場を開始する。

今回、ライプツィヒ工場の拡張に時期を合わせて発表したプロトタイプは、BMW ActiveHybrid 駆動コンセプトの一貫した進化の証を示すものだが、それだけにとどまらない。この車両には、BMW EfficientDynamics 用に細部まで定義された車両コンセプトが、全て盛り込まれている。即ちこれは、BMW グループの開発力の高さをはっきりと物語っている一例である。未来志向のモビリティと BMW が提供する駆けぬける喜びの一体化がもたらす明るい展望、それを具体的に示す良い例がメガシティー・ビークルであり、BMW Vision EfficientDynamics をベースとするスポーツ・カーである。

BMW グループについて

BMW グループは、BMW、MINI、ロールス・ロイスの 3 つのプレミアム・ブランドを擁する、自動車およびモーターサイクルのトップ・メーカーの一つであり、世界 13 カ国に 24 の製造工場を有し、140 カ国以上に販売網を構築しているグローバルな企業である。

2009 年度における自動車総販売台数は 129 万台、モーターサイクルは 8 万 7,000 台で、売上高は 506 億 8,000 万ユーロ (1 ユーロ 135 円換算で約 6 兆 8,418 億円) を計上した。また、2009 年 12 月末時点における従業員数は約 9 万 6,000 名である。

BMW グループは常に長期的な視野と責任ある行動を企業の指針とすることで成功をおさめ

ており、その結果、すべてのバリュー・チェーンにおける環境的および社会的持続性、責任のある製品作り、さらには資源保護に対する明確なコミットメントを企業戦略の不可分な要素として確立している。このような努力が実を結び、BMW グループはダウ・ジョーンズ・サステイナビリティ・インデックスの自動車部門において、6 年連続でトップに選定されている。